

古代アメリカ学会第10回東日本部会研究懇談会

〔研究懇談会概要〕

「ピラミッド・儀礼・神殿・祭祀」と題した今回の研究懇談会では、メキシコ現地で調査研究をされている黒崎充氏と、第7回西日本部会研究懇談会でお話を予定していた鶴見英成会員に、最新の調査についてご報告いただきます。学会員の枠を超えた専門家との意見交換の絶好の機会にさせていただきたいと思っております。是非この機会にふるってご参加ください。

〔日時〕 2018年11月25日（日）

- ・開会あいさつ 13:00
- ・発表1：13:05～14:35（発表時間1時間＋コメントおよび質疑応答30分）
- ・小休憩（15分）
- ・発表2：14:50～16:20（発表時間1時間＋コメントおよび質疑応答30分）

〔会場〕：東京大学本郷キャンパス総合研究博物館7階ミューズホール

<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/information/map.html>

・博物館の正面玄関より入館し、常設展会場を経由して、案内に従いエレベーターホールにお越しいただき、階段の左側のエレベーターで7階にお上がり下さい。階段の右側のエレベーターは6階までしか上がりません。

発表1 「メキシコ湾岸部ベラクルス州中部地方南部地域のホヤ遺跡における古典期後期のピラミッド建設後の儀礼について」

【発表者】 黒崎 充（ベラクルス州立大学）

【コメンテーター】 松本 剛（山形大学）

【概要】

メキシコ湾岸部に位置するホヤ遺跡（La Joya）では、2005年より緊急の発掘調査が行われた。地元のレンガ作りのため削平されていた土の建造物が消滅する前に、そのデータを記録保存する目的で、メキシコ国立自治大学人類学研究所のアニック・ダニールズ団長のもと全面発掘を行った。その結果、東の建造物と呼ばれるピラミッドでは、古典期後期（紀元後500年から1000年）に相当する建造物の床上より埋葬や土偶や様々な土器が検出された。これらは、メソアメリカで一般的に *Ofrenda de terminación* と呼ばれるピラミッド建設後の儀礼にかかわるものと解釈されている。

本発表では、この一括資料がどのような構成であるのかを報告し、その特徴からピラミッド建設後の儀礼の様子を考える。そして、このコンテクストを通して、ベラクルス州中部地方南部地域の古典期後期社会について考察する。

発表2 「アンデス文明の最初期の神殿について：その成立過程と性格に関する試論」

【発表者】 鶴見英成（東京大学総合研究博物館）

【コメンテーター】 関 雄二（国立民族学博物館）

【概要】

紀元前 3000 年頃より、神殿と呼ばれる大規模で公共的な祭祀建築が、ペルー北部の海岸・山地の各地に登場した。その築造と増改築が反復されたことが、アンデス文明の形成を促したとされる。とくに最初期の神殿群はどういった背景のもとに生まれ、アンデス文明の公共建築の伝統にどのような性格を与えたのだろうか。モスキート遺跡、コトシュ遺跡、ハンカオ遺跡の発掘調査や、地上絵・岩絵を含む広域踏査などの成果をふまえ、生業、交易、景観などに関するいくつかの仮説を複合的に提示する。

〔主催〕：古代アメリカ学会

〔連絡先〕：

・ 東日本部会幹事・福原弘識（非常勤講師） hironorifukuhara@gmail.com

・ 古代アメリカ学会事務局 jssaa*sa.rwx.jp

（上記アドレスの*を@に換えて下さい）